

## 【代表理事就任の挨拶】

佐野 雅昭

(鹿児島大学水産学部)

今回のシンポジウムテーマの通り、日本水産業をとりまく環境は現在大きく変化しています。海洋環境や資源変動などの自然条件の変化はもとより、政治、経済そして社会における劇的な変化とそれらを加速するテクノロジーの進歩は現代の日本水産業に大きな影響を及ぼし、抜本的変革を迫っています。漁業従事者は大きく減少し、同時に国内市場規模も大きく縮減しています。これまで経験したことがない全体的かつ急速な縮小再編のプロセスに入りつつある今、漁業者や系統団体をはじめとする水産業界の実業セクターは生き残るために自ら大きく変わろうとしています。

当学会は1952年に設立された当初から日本水産業の発展に深く関与してきました。その間、日本水産業は高度成長と沿岸域開発、200海里制度の定着化と遠洋漁場の喪失、急激な円高と水産物輸入拡大など大きな変化を経験し、しかし逞しく発展を遂げてきました。当学会も深沈たる学究的態度で日本水産業を観察するだけではなく、同時に多くの具体的かつ実践的成果ももたらしてきたのです。このような67年にも及ぶ当学会の歴史とそこでの多くの先賢らの業績や社会への貢献を鑑みれば、今を生きる我々も変革を恐れず、守るべきものを守り、現代のそして未来の日本水産業の持続的発展に貢献しなくてはなりません。それぞれの立場から日本水産業がどうあるべきか真摯に考え、率直に意見を交換し、切実かつ誠実に行動しなければなりません。厳しい現場から視線を逸らした自己中心的組織となってしまうと、当学会は水産業界の中ですなわち日本社会の中で、その存在意義を失うでしょう。

こうした厳しい時代の中、多くの諸先輩方を差し置いて僭越ではありますが、代表理事として当学会の円滑な運営とその発展に最善を尽くす所存です。そしてさらに日本水産業の発展に貢献できる学会となるよう、会員の皆様とともに努力していきたいと思っております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、新しい運営体制ですが、学会事務の多くを外部委託することとなりました。そこで別途お示ししましたとおり副代表理事がその監督者として総務及び組織・会計という2つの業務を担当することとしました。また代表理事は学会運営全体を監督します。その他の役員等は実際の水産業界に近い場所で活動している若手大学人を中心に配しました。渉外担当は、水研連等の会合が行われる東京海洋大学の馬場先生にお願いしました。最後に、これまで長らく学会事務を担当していただきました東京海洋大学の工藤先生には、引き続き監事として学会運営全体を監査していただくことになりました。学会事務は面倒な割に報われることの少ない役目です。工藤先生は長年この役目を務めてこられ、当学会の維持運営に多大な貢献をされました。ここに深謝いたします。

以上をもちまして、代表理事就任の挨拶とさせていただきます。代表理事も運営組織も大きく変わります。分からないこと、不手際も多いことと思っておりますので、会員の皆様の寛大なお心持ちと積極的な学会運営参画が何より必要です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### ＜漁業経済学会新体制＞に関して

- ・代表理事 : 佐野雅昭
  - ・副代表理事 : 常清秀 (三重大学) 甫喜本憲 (水産大学校)
  - ・事務局 : 総務担当 ; 甫喜本憲 (水産大学校)  
組織・会計担当 ; 常清秀 (三重大学)  
編集担当 (編集委員長) ; 久賀みず保 (鹿児島大学)  
HP管理 ; 大西学 (名古屋外国語大学)  
渉外関係 ; 馬場治 (東京海洋大)
- シンポ担当委員 ; 佐野雅昭 (代表理事)、常清秀・甫喜本憲 (以上2名副代表理事)、  
鳥居享司 (鹿児島大学)、佐々木貴文 (北海道大学)、副島久美 (水産大学校)
- 理事 ; 伊藤康宏、板倉信明、大谷誠、大西学、亀田和彦、久賀みず保、黒沼吉弘、佐々木貴文、佐野雅昭、  
常清秀、末永芳美、副島久美、竹ノ内徳人、田坂行男、玉置泰司、鳥居享司、西村絵美、濱田英嗣、  
東村玲子、廣田将仁、古林英一、甫喜本憲、牧野光琢、松井隆宏、三木奈都子、宮沢晴彦、若林良和  
(以上27名)
- 監事 ; 松浦勉 (中央水産研究所)、工藤貴史 (東京海洋大)